

発 行： 日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)

会 長： 末石 富太郎

事務局： 〒305 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学社会工学系 池田研究室気付

発行責任者・事務局担当理事

TEL. 0298(53)5380 FAX. (55)3849

池田 三郎

--- 目 次 ---

1. 年次総会案内
2. 第2期役員候補者一覧
3. 春季講演シンポジウムのお知らせ
4. 学会誌第2号の準備状況
5. 年会費(1990年度)納入のお願い
6. 第3回研究発表会のお知らせ
7. 事務局だより
 - 7.1 リスク関連学会・会議のお知らせ
 - 7.2 SRA Journal の目次
 - 7.3 リスク関連資料
8. 新会員紹介

1. 年次総会案内

年次総会を春季講演シンポジウムと併せて下記の要領で開催しますのでご参集下さいますようご案内申し上げます。学会創立後3年目を迎え、第2期の役員を選出する重要な機会ですので講演・パネル討論会と併せてご出席をお願いします。

日時： 6月2日(土)午後1時— 1時45分

場所： 東京大学工学部8号館都市工学科82番教室(講演会と同一会場)

議題： (1) 1989年度事業報告及び決算報告

(2) 第2期役員選出

(3) 1990年度事業計画と予算

(4) その他

(第4回理事会を総会の前に開催します。 時間： 午前11時— 12時半

場所： 東京大学工学部都市工学教室内

なお、年次総会は規約により過半数の出席が必要ですので、同封の出欠表（委任状）にご記入の上必ず5月19日（土）までにご返送下さい。

2. 第2期役員候補者一覧（総会への提出議案）

第1期の理事会（持回り）にて下記のような第2期の役員候補の推薦を年次総会に提案することになりました。

会長： 横山 栄二 （前副会長：国立公衆衛生院次長）

副会長： 木下 富雄 （新任： 京都大学教養部教授）

理事： 朝見 行弘 （再任：福岡大学法学部助教授）

天野 博正 （前会計監事：(財)電力中央研究所環境総合推進室長）

池田 正之 （再任：京都大学医学部教授）

池田 三郎 （再任：筑波大学社会工学系教授）

石崎 勝義 （再任：建設省土木研究所次長）

加藤 和彦 （新任：安田火災海上保険(株)テクノサービス部課長）

北畠 能房 （再任：筑波大学社会工学系助教授）

草間 朋子 （新任：東京大学医学部助教授）

黒田 勝彦 （再任：京都大学工学部交通土木工学科助教授）

小林 定喜 （再任：科学技術庁放射線医学研究所総括安全解析研究官）

酒井 泰弘 （新任：筑波大学社会科学系助教授）

末石 富太郎 （前会長：大阪大学工学部環境工学科教授）

鈴木 治 （新任：東京海上火災保険(株)安全サービス部室長）

田中 勝 （再任：国立公衆衛生院衛生工学部室長）

田村 坦之 （新任：大阪大学精密工学科教授）

中村 正久 （再任：滋賀県琵琶湖研究所主任研究員）

林 裕三 （再任：国立衛生試験所病理部・部長）

広瀬 弘忠 （再任：東京女子大学文理学部教授）

松原 望 （再任：東京大学教養学部社会科学科教授）

盛岡 通 （再任：大阪大学工学部環境工学科助教授）

会計監事： 内山 巖雄 （新任：国立公衆衛生院労働衛生学部・部長）

3. 日本リスク研究学会 第3回春季講演シンポジウム案内

本学会では第3回の春季講演シンポジウムを下記の要領で開催することになりましたのでご案内申し上げます。

趣旨： 本年度（1990）から国際防災の10年（IDNDR）が始まり、世界が自然災害の防止、軽減に集中的に取り組むことになっています。また、地球温暖化にともなう自然災害の増加についても世界各地で大きな話題となっています。災害防止とリスク管理は語感としてはかなり異なったものですが、意味的には共通するものを多く含んでいます。日本におけるリスク研究はまだ緒についたばかりですが、リスク概念、リスク分析による視点が自然災害（または人災、技術災害）の防止と軽減にどのように貢献できるのか、第一線で活躍されている関係者にお集まりいただき、その可能性と限界を議論しようとするものです。学会の内外を問わずご参加をお願いします。

講演シンポジウムの概要

日時： 1990年6月2日（土）：午後2時～5時半

場所： 東京大学工学部8号館都市工学科82番教室

（東京都文京区本郷2丁目：地下鉄丸の内線本郷2丁目、又は千代田線根津下車徒歩約10分、添付の地図を参照下さい）

特別講演：地球温暖化と自然災害

講演者：木下武雄（国立防災科学センター、第一研究部長）

パネル討論：自然災害の防止、軽減にリスク的視点はいかに貢献できるか

司会者：片山恒夫（東京大学生産技術研究所、教授；地震災害とリスク）

討論者：石崎勝義（建設省土木研究所、研究調査官；災害の歴史とリスク）

岡田憲夫（鳥取大学工学部、教授；リスク分析手法）

梶 秀樹（筑波大学社会工学系、教授；都市災害とリスク）

吉村秀実（NHK、解説委員；自然災害とマスコミ）

木下武雄（国立防災科学センター）

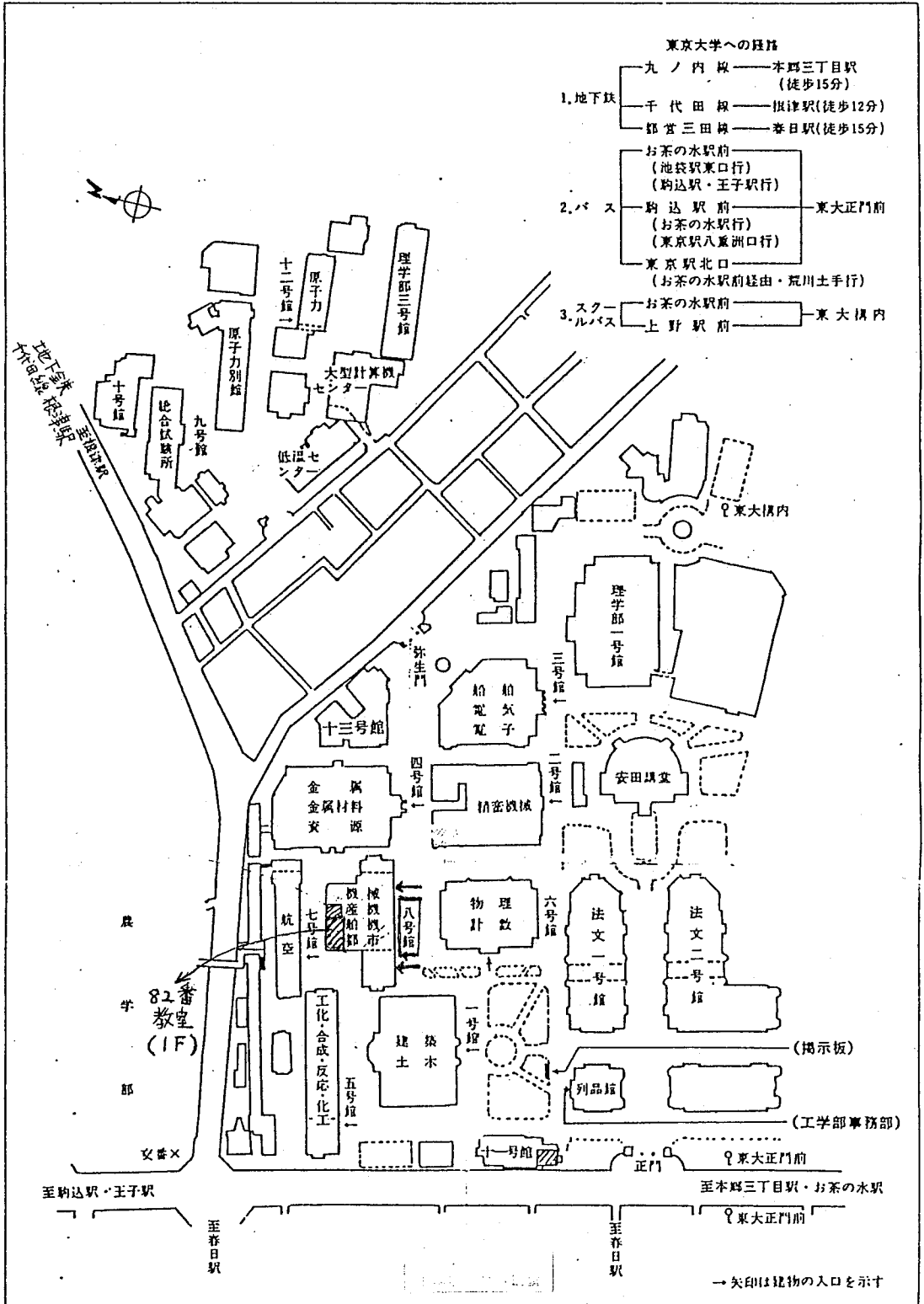
（終了後に討論者を囲んだ懇親会を予定しています）

連絡先：茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学社会工学系池田研究室

日本リスク研究学会事務局

電話：0298-53-5380 Fax: 0298-55-3849

総会・春季講演シンポジウムの会場案内の略図



4. 学会誌第2巻の準備状況

学会誌第2巻には現在3編の解説論文と約5編の寄稿論文(予定を含む)と3編の研究論文(現在査読手続き中)が寄せられています。このほか、今回は特に、多くの会員から現在のリスク研究の状況や関心事を研究短信という形式で寄稿して頂きました。また、春季講演・パネル討論会の内容も掲載の方向で準備しています。刊行予定は9月初旬で、創刊号に優る内容をと編集委員会では努力中です。

リスク研究(日本リスク研究学会)第2巻の内容(予定)

1. 巻頭論文:(論題:未定):横山栄二(副会長、国立公衆衛生院)
2. 第2回研究発表会の報告:企画・実行委員会
3. 解説論文(第2回研究発表会分野別レビューと研究報告を中心として)
 - (1) 疫学からみたリスク評価:清水弘之(岐阜大)
 - (2) 都市防災からみたリスク評価と対策:亀田弘行(京都大)
 - (3) 製造物責任リスクとその対策:新井克(安田火災海上保険)
4. 寄稿論文
 - (1) 高血圧症疫学におけるリスク評価(予定):田中平三(東京医科歯科大)
 - (2) 職業ガンにおけるリスク評価:大前和幸(慶応大)
 - (3) 幹線道路沿道における大気汚染とその健康影響評価(予定):
小野雅司、田村憲治、村上正孝(国立公害研)
 - (4) 河川行政とリスク概念:市川新、水野敏之(東京大)
 - (5) 自然災害リスクと土地利用計画:黒田勝彦(京都大)、難波義郎(近畿大)
5. 研究論文:数篇(現在3編が査読手続き中)
6. 研究短信
会員の6氏から最近の研究動向が寄せられています。
7. パネル討論会(自然災害の防止にリスク研究は有効か)の概要
8. 事務局便り(総会、理事会報告、会員状況)
9. 新会員名簿

5. 年会費(1990年度)納入のお願い

1989年度より年会費は下記のようなっています。会費収入の大部分は学会誌の発行に充当しますので何かと出費の重なる時期ではありますが、早期納入をお願い致します。

正会員:	4,000円
準会員:	2,500円
賛助会員:	30,000円

(ご送金には同封の郵便振替用紙をご利用下さい)

6. 第3回研究発表会のお知らせ

日本リスク研究学会の第3回研究発表会を1990年11月30日(金)、12月1日(土)に開催いたします。今回は2日間の日程を組みました。週日の金曜日もありますので、民間企業の会員の方々のご参加を特に期待しています。会員の内外を問わず、リスク研究に関するアイデアや視点、実施例についての意見交換や技法開発の試みのご発表を歓迎いたします。

- (1) 日時：1990年11月30日(金) 10:00 - 17:00、
12月1日(土) 10:00 - 14:30
- (2) 場所：国立公衆衛生院(東京都港区白金台4-6-1：山の手線目黒駅下車徒歩10分)
- (3) 研究発表は1人20分程度、討議10分程度を考えています。発表件数により変更があることをあらかじめお断わりいたします。
- (4) 研究発表は以下の3つの特別セッション(レビュー講演と一般発表)とその他一般研究報告とします。また特別講演も予定しています。研究発表のテーマとしては、リスク研究に関するものであれば、特に分野を問いませんが、各セッションに関するケーススタディなどはとりわけ歓迎いたします。
 - (a) 製造物責任とリスク管理：理念と制度 (担当：朝見行弘理事)
 - (b) 事前対応型リスク管理の論理：環境・資源利用のリスク (担当：北畠能房理事)
 - (c) 検査と診断におけるリスク (担当：林裕三理事)
 - (d) 一般テーマ：リスク分析・管理の方法と実際 (担当：小林定喜理事)
- (5) 発表申込み締切：8月末日
- (6) 発表を希望される方は、氏名(連名者を含む)、所属、連絡先、電話番号、希望の発表のセッション名(上記の(a),(b),(c)に加えて(d)一般、のいずれか)に研究の概要(400字程度)を最終頁に添付の申込み用紙に記入の上、下記までお送り下さい。

〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学 社会工学系
池田研究室気付
日本リスク研究学会事務局

なお、研究発表のプログラム上の制約から、御希望に沿えないこともあることをあらかじめお断わりするとともに、発表論文の採択については実行委員会に御一任くださる様お願い申し上げます。

(7) 発表原稿締切：10月30日（金）必着

(8) 講演要旨集：発表原稿は講演要旨集として発行しますので、必ずワープロにて原稿を作成していただきますようお願いいたします。原稿は1行48字で42行、1頁あたり2016字にて4-6頁でA4用紙に仕上げただけければ、そのままオフセット印刷を効率よく進めることができますので、御協力のほどをお願い申し上げます。活字10.5ポイント（5号級）、文字ピッチ3/20インチ（3.6mm）、行間ピッチ1/4インチ（6.0mm）を基本にいたしますが、原稿を約80%に縮小することを留意して図表などを作成して下さるようお願いいたします。

(9) 参加費：2,000円（予定）（講演要旨集、会場費を含む）

(10) 第3回研究発表会実行委員会

朝見行弘（福岡大）、林裕三（国立衛生試験所）、北畠能房（筑波大学）
小林定喜（放射線医学研究所）各理事

7. 事務局だより

7.1 リスク関連の学会・会議のお知らせ

CALL FOR PAPERS

1990 ANNUAL MEETING OF THE SOCIETY FOR RISK ANALYSIS

Intercontinental Hotel, New Orleans, Louisiana
October 7-10, 1990

THEME: Promise of Risk Analysis in the '90s

PROGRAM CATEGORIES:

Engineering and Statistics
Health and Environment
Social and Policy Issues

Safety at Chemical Plants
Waste Minimization
Nuclear Accident Management
Life Support Systems
Medical Waste
Reauthorization of Superfund/RCRA
Effectiveness of Remedial Alternatives
Quantitative Risk Assessment for Noncancer Effects
Improving Risk Characterization
Use of Animal Sentinels
Biomarkers of Exposure
Use of Plants as Toxicological Indicators

Use of Fish in Cancer Research
Pharmacodynamic Modeling
Innovative Methods in Toxicology
Additives — Growth Hormones
Global Issues
Decision Making Under Uncertainty
Risk Communication
Decision Making and Ethics
Community Involvement
Proposition 65
Waste Management Strategies
Siting of Hazardous Facilities
Medical Decision Making

Calendar of Events

—March 1-September 20. COURSES OFFERED BY HARVARD SCHOOL OF PUBLIC HEALTH, Boston, Massachusetts: Radon in Buildings: Sources, Biological Effects, Monitoring, & Control (March 1-2); Fundamentals of Industrial Hygiene (March 26-30); Occupational & Environmental Radiation Protection (March 26-30); Measurement Techniques for the Industrial Environment: Air Quality & Ventilation (April 23-27); Asbestos Abatement Projects: Certification for Inspectors, Monitors, Management Planners, and Designers (April 30-May 4); Radiation Protection Instrumentation (May 7-11); Work Schedules and Circadian Rhythms: Strategies for Improving Health, Safety, & Performance in 24-Hour Operations (May 30-31; May 30-June 1); Environmental Radiation Surveillance (June 11-15); In-place Filter Testing Workshop (June 11-15); Testing & Certification of Biological Safety Cabinets (June 11-15; certification option June 11-18); Management and Disposal of Radioactive Wastes (July 10-14); Respiratory Protection and Chemical Protective Clothing (August 13-17); Indoor Air Quality (September 18-20). Contact: Mary F. McPeak, Office of Continuing Education, Harvard School of Public Health, 677 Huntington Avenue/Department B, Boston, Massachusetts 02115 (Phone: 617-432-3515).

—March 28. CONFERENCE ON BUSINESS, SOCIETY, AND ENVIRONMENTAL CRISES: WHO AND WHAT WILL THE PUBLIC BELIEVE? University of Houston Institute for Business, Ethics and Public Issues (see story in this newsletter). Cosponsored by the Citizens' Environmental Coalition. Contacts: P. F. Deisler, Jr. (Phone 713-749-6672) or J. J. Miller (713-749-6690); or write the College of Business Administration, University of Houston, Houston, Texas 77204-6283.

—April 2-3. 2ND CONFERENCE OF SRA-EUROPE, IIASA Conference Center, Laxenburg, Austria. Theme: Risk Analysis, Standards and Abnormal Occurrences (see story in this newsletter). Contact Björn Wahlström, IIASA, A-2361, Laxenburg, Austria (Phone: 02236-71521*0; FAX: 02236-71313; Telex: 079137 iiasa a)

—May 1-2. DRINKING WATER AND PUBLIC HEALTH, University of Massachusetts, Amherst. Cosponsors include the U.S. Environmental Protection Agency and U.S. Agency for Toxic

Substances and Disease Registry. For general information, contact: Charles E. Gilbert, Northeast Regional Environmental Public Health Center, University of Massachusetts, Amherst, Massachusetts 01003-0081 (Phone: 413-545-3164 or FAX: 413-545-4692).

—May 8-10. HAZTECH INTERNATIONAL 90, George R. Brown Convention Center, Hall D, Houston, Texas. Sponsored by The Institute for International Research. Contact: Rachelle Scheinbach, Institute for International Research—Bellevue, 13555 Bel-Red Road, Bellevue, Washington 98009 (Phone: 1-800-468-7644; 206-746-4173 in WA; FAX: 206-643-2146).

—May 21-23. SRA 5TH ANNUAL COURSE ON CARCINOGEN RISK ASSESSMENT, Hyatt Regency, Bethesda, Maryland (see story in this newsletter). Contact: Curtis C. Travis (Phone: 615-576-2107; FTS: 626-2107) or Mary Oran (Phone: 615-574-8438; FTS: 624-8438).

—June 2. 3RD ANNUAL MEETING OF SRA-JAPAN, University of Tokyo. Special Workshop: Risk Analysis in Disaster Management (see story in this newsletter). Contact: T. Katayama, University of Tokyo, or Saburo Ikeda, University of Tsukuba, Institute of Socio-Economic Planning, Tsukuba 305, Japan. (Phone: 0298-53-5182 or -5170; FAX: 0298-55-3849 or -5070).

—June 18-22. 7TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON RELIABILITY AND MAINTAINABILITY, Brest, France (see May 1989 newsletter).

—June 28-29. 2ND EUROPEAN CONFERENCE OF INTERNATIONAL ASSOCIATION FOR IMPACT ASSESSMENT, Lausanne, Switzerland (see May 1989 newsletter).

—September 26-28. HAZTECH INTERNATIONAL 90, Brooks Hall, San Francisco, California. Contact: Rachelle Scheinbach (see above).

—September 30-October 3. INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON HAZARDOUS MATERIALS/WASTES: SOCIAL ASPECTS OF FACILITY PLANNING AND MANAGEMENT, Harbour Castle Westin, Toronto, Ontario, Canada. Organized by The Institute for

Social Impact Assessment. One of the keynote speakers will be Stephen Lewis, former Canadian Ambassador to the United Nations. Call for papers: 150-400 word abstract with tentative title, subject matter, and topic with the author's name, address, and telephone number submitted no later than March 3, 1990 to Social Aspects Symposium Headquarters, Conference and Seminar Services, Humber College, 205 Humber College Boulevard, Etobicoke, Ontario M9W 5L7 Canada (Phone: 416-675-5077; FAX: 416-675-0135). For information contact: Ingrid Norrish, Conference Management Director, Social Aspects Symposium (Phone: 416-675-3111, ext. 4459; FAX: 416-675-0135).

—October 1-2. 6TH ANNUAL MEETING OF THE INTERNATIONAL SOCIETY OF REGULATORY TOXICOLOGY AND PHARMACOLOGY, Stouffer Concourse Hotel, Washington, D.C. Theme: What Can Be Done to Improve Public Understanding of the Toxicological Process? For more information, contact: Secretary, C. Jelleff Carr, 6546 Bellevue Drive, Columbia, Maryland 21046 (Phone: 301-992-9083).

—October 2-4, 1990. HAZTECH INTERNATIONAL 90, David L. Lawrence Convention Center, Pittsburgh, Pennsylvania. Contact: Rachelle Scheinbach (see above).

—October 7-10. ANNUAL MEETING OF THE SOCIETY FOR RISK ANALYSIS, Continental Hotel, New Orleans, Louisiana (see Call for Papers in this newsletter).

—November 22-23. ENVIRONMENTAL RISK MANAGEMENT: THE EUROPEAN CASE, Kiev, USSR. Sponsored by SRA-Europe with WHO-Regional Office for Europe, Economic Commission for Europe, and OECD. Coorganized by Institute for Environment and Systems Analysis, Amsterdam, and Cybernetics Institute, Kiev (see story in this newsletter). Contact: P.J.M. Stallen, IMSA, Emmastraat 16, 1075 HT Amsterdam, The Netherlands (Phone: 020-662-0696; FAX: 020-751-576).

—February 4-7, 1991. INTERNATIONAL CONFERENCE ON PROBABILISTIC SAFETY ASSESSMENT AND MANAGEMENT (PSAM), Beverly Hills, California. Sponsored by the Society for Risk Analysis. For further information, contact: George Apostolakis (Phone: 213-825-1300; Telex: 3716012 UCLA LSA; or FAX: 213-825-0761).

RISK *newsletter*

Published by the SOCIETY for RISK ANALYSIS

Volume 10, Number 1

January, 1990

Risk Analysis Gains Recognition

Evidence of the public's recognition, if not always its acceptance, of risk analysis as a basis for societal decisions is cropping up in unexpected places. Within a three-month span, for example, *The Christian Century* addressed the subject of risk analysis twice. In its September 27, 1989, issue, William H. Willimon, referring to an article by Richard Wilson and E. A. C. Crouch, wrote that "*Science* [April 1987] reports that there is a whole new field of science called risk-assessment analysis." He noted, in part facetiously, that people now can figure out how to die well. A subsequent editorial by James M. Wall (December 6, 1989), titled "When Risk Analysis Confronts Faith," seriously argues both for faith in the expertise of risk analysts and for an acceptance that life can never be risk free.

Risk analysts no doubt welcome Wall's support, at the same time realizing that faith in their conclusions may not be enough to initiate actions against a risk. The lack of acceptance may be attributed to any number of reasons, but sometimes it is simply because the public is forced to choose between opposing risks. In his luncheon talk on "Lessons from the War Zone" at SRA's 1989 Annual Meeting, Stanford University's President Donald Kennedy described just such a situation. He was "run over by a train," he said, when in 1978, as Commissioner of the Food and Drug Administration, he announced that the 1938 Safety Provision of the

(Continued on page 2.)

Ruckelshaus Gives "Wish List"

William D. Ruckelshaus, recipient of SRA's 1989 Distinguished Service Award, presented a "wish list" during his address to the Society's Plenary Session of the 1989 Annual Meeting in San Francisco. Admitting that he thought primarily in terms of the Environmental Protection Agency, which he had headed twice, he said he would like to see the country do the following:

- Stop bashing the EPA. ("It is the one institution in the country that has a chance of accomplishing any of the goals of the environmental movement.")
- Stop giving EPA assignments it cannot carry out. ("I don't really believe that the public can't take something less than zero risk.")
- Change the political rhetoric that obscures so much of our public debate. ("Before promising an end to [all risks], I would force every politician to [tell] how much it will cost, and who's going to pay for it.")
- Stop calling each other names. ("Everyone who disagrees with you is not either in the pocket of industry or a tree hugger.")
- Have balanced reporting from the media. ("Balanced reporting is not trying to find extremes of opinion to see if you can set up a Geraldo Rivera kind of brawl.")
- Develop a public involvement process that has an endpoint at which a decision is ultimately made. ("The irony is that the longer it takes to get new facilities sited, the more obsolete and less environmentally sound are the facilities being used.")
- Let EPA's first responsibility be to educate the public, and through the public, to educate Congress. ("EPA's first mission was advocacy, [but now] it is to educate, educate, educate.....We need neutral sets of data.....A wise public policy would give us the ability to choose where to direct

(Continued on page 2.)

News from SRA-Japan

SRA-Japan will hold its 1990 Annual Meeting and a special workshop on Saturday, June 2, at the University of Tokyo, Department of Urban Planning, from 1-5 PM. The workshop, titled "Risk Analysis in Disaster Management (in Relation to Global Environmental Changes)," will feature as guest speakers T. Kinoshita from the National Institute of Disaster Prevention and five persons from administration, mass-media, and academic fields. The convener of the meeting is T. Katayama of the University of Tokyo. The presentation and discussions will appear in the forthcoming *Japanese Journal of Risk Analysis*.

Approximately 100 participants attended SRA-Japan's 1989 Annual Conference held on December 9 in Toranomon, Tokyo. The conference received attention from the press, including news coverage by the *Yomiuri*. The program was presented in five sessions which included both review and contributed papers: Risk Analysis in Epidemiology, Prevention of Disasters in Urban Areas, Product Liabilities and Risks, Public Decision Making, and Risk Communication. Abstracts of the papers in Japanese are available from the secretary of SRA-Japan: Saburo Ikeda, Institute of Socio-Economic Planning, The University of Tsukuba,

Third Annual Meeting

SRA-Japan

June 2, 1990

University of Tokyo

1-1-1 Tennoudai, Ibaraki 305, Japan
(Phone: 0298-53-5182; FAX: 0298-53-5070).

News from SRA-Europe

SRA-Europe will hold its Second Conference at the International Institute for Applied Systems Analysis (IIASA) in Laxenburg, Austria on April 2-3. Titled "Risk Analysis, Standards, and Abnormal Occurrences," the conference is coorganized by IIASA and cosponsored by the World Health Organization (WHO) Regional Office for Europe. Participation is open to

both members and non-members of the Society. Subjects that will be covered include: work in hand on establishing appropriate standards, case reports of abnormal occurrences, environmental impacts and future analysis, risks following large accidents, primary prevention, relationships between risk analysis and the social or organizational environment, risk communication, risk cultures and philosophy, physical and mental health issues, and methodological issues in applying normative frameworks to social or sociotechnical systems. (Note: Selected papers presented at the first SRA-Europe Conference, held November 10-11, 1988, in Laxenburg, were published in the December 1989 issue of the SRA journal *Risk Analysis*.)

Kiev Conference. The SRA-Europe executive committee with the support of the WHO Regional Office for Europe, the Economic Commission for Europe, and OECD has also organized a special SRA conference

on "Environmental Risk Management: The European Case" in Kiev, USSR, November 22-23. The conference is coorganized by the Institute for Environment and Systems Analysis, Amsterdam, and the Cybernetics Institute, Kiev.

The major goals of the Kiev conference are "to enhance and facilitate the interaction between eastern and western European professionals" and "to increase the understanding of the very serious risk problems at both 'sides.'" Session topics will include: industrial risks, environmental risks to agriculture/fishery, and risks for small diffuse sources (like the transportation system). To request more information on the conference, send your name, institute, address, zip code, country and business telephone number to: P.J. Stallen, SRA-Europe, c/o Emmastraat 16, 1075 HT Amsterdam, The Netherlands (FAX: +31 20 751576).

Second Conference

SRA-Europe

April 2-3, 1990

Laxenburg, Austria

7.2 SRA Journal の目次

The table of contents of Vol. 10, No. 1 of the SRA journal *Risk Analysis* is reprinted below.

EDITORIALS

Michael Gough, *How Much Cancer Can EPA Regulate Away?*
Bernard Goldstein, *The Problem with the Margin of Safety: Toward the Concept of Protection*

LETTERS TO THE EDITOR

Dale Hattis, *Three Candidate Laws of Uncertainty Analysis*
Hari Rao and David Brown, *House Fire: A Source of Dioxins*

WORKSHOP ON INDOOR AIR QUALITY

Haluk Ozkaynak, *Introduction to the Risk Assessment Workshop on Indoor Air Quality*

Brian Leaderer, *Assessing Exposures to Environmental Tobacco Smoke*

James Repace and Alfred Lowrey, *Risk Assessment Methodologies in Passive Smoking*

Anna Wu and Jonathan Samet, *Environmental Tobacco Smoke: Exposure-Response Relationships in Epidemiologic Studies*

Jan A. J. Stolwijk, *Assessment of Population Exposure and Carcinogenic Risk Posed by Volatile Organic Compounds in Indoor Air*

Lance Wallace, *Major Sources of Exposure to Benzene and Other Volatile Organic Chemicals*

Jonathan Samet and Richard Hornung, *Review of Radon and Lung Cancer Risk*

Richard Gammage, *Exposure to Formaldehyde in Indoor Air*

Thomas Starr, *Quantitative Cancer Risk Estimation for Formaldehyde*

ARTICLES

James Hamnitt, *Subjective Probability-Based Scenarios for Uncertain Input Parameters: Stratospheric Ozone Depletion*

Stephen Hora and Ronald Iman, *Bayesian Modeling of Initiating Event Frequencies at Nuclear Power Plants*

Yacov Haimes, Duan Li, and Vijay Tulsiani, *Multiobjective Decision-Tree Analysis*

Frank Denton, *The Effects of Publication Selection on Test Probabilities and Estimator Distributions*

Eric Hirst and Martin Schweitzer, *Electric-Utility Resource Planning and Decision Making: The Importance of Uncertainty*
Ralph Keeney, *Mortality Risks Induced by Economic Expenditures*

Gary Machlis and Eugene Rosa, *Desired Risk: Broadening the Social Amplification of Risk Framework*

Bruce Tomm, Cheryl Travis, Richard Goeltz, and Raymond Phillippi, *Knowledge-Based Representations of Risk Beliefs*

SOFTWARE REVIEWS

Greg Belcher and Holly Hattemer-Frey, *A Program for Calculating Health Risks from Hazardous Waste Incineration*

W. D. Rowe, *Response from Rowe Research and Engineering Associates, Inc.*

SOFTWARE LISTINGS

Paul Moskowitz, *EPIcode*

BOOK REVIEWS

Robin White

7.3 受領資料 (1989.12. - 1990.4)

- (1) 第5回環境工学連合講演会講演論文集 (1990, January)
- (2) Proceedings of the International Conference on "Risk Assessment of Energy Development and Modern Technology", edited by T. Sugawara, T. Aoyama, M. Ikebuchi and H. Yoneyama, Kyoto, April 1989, Health Research Foundation, (青山喬会員より寄贈)
- (3) 情報通信とセキュリティ、日本情報通信振興協会、1989.6 (内田清二会員より寄贈)
- (4) ロマ・プリータ地震東京都調査団報告、東京都、1990.2 (梶秀樹会員より寄贈)
- (5) エネルギーレビュー (特集リスクへの対応)、1990.9 (笠井篤会員より寄贈)
- (6) 製造物責任-国際化する企業の課題、(株)安田総合研究所、有斐閣、1989、(新井克会員より寄贈)

8. 新会員紹介 (1990年1月-1990年4月)

杉田	義和	(株)数理計画	数理計画部
竹村	和久	光華女子短期大学	情報処理研究室
千葉	百子	順天堂大学医学部	衛生学教室
上林	哲也	愛知県土木部	
浅見	政江	(株)アイ・イー・エー・ジャパン	環境エネルギー部
成田	昌稔	環境庁企画調整局	環境研究技術課
堀内	三郎	京都大学名誉教授	
山下	穰	神奈川県商工部	商業観光課
宇野	正清	奈良県衛生研究所	
坪川	速丈	トヨタ自動車(株)	
楠見	孝	筑波大学	社会学系

日本リスク研究学会第3回研究発表会
発表申し込み書

発 表 題 目			希望セッション a, b, c, d
氏名(ふりがな) (発表者及び連名者)	各所属	会員種別(正会員、 賛助会員、準会員)	
1. 2. 3. 4. 5. 発表者には○印			
連絡者 氏名 住所			
発表要旨：			